

農業は、国民に対する食料の安定供給という極めて重要な役割を担っている



食料自給率がさらに低下し、我が国の食料の安全保障を揺るがす事態に

近年、我が国の農業を取り巻く状況は大きく変化

- 農業の担い手の減少に拍車
- 頻発化・激甚化する自然災害、鳥インフルエンザなどの家畜伝染病等、様々なリスクが増大
- 世界情勢の影響などにより、原材料や生産資材等の価格が高騰。これにより、生産コストが上昇し、収益が悪化

このままでは、農家の多くは経営継続が困難、また、農業を志す若者も大幅に減少することになり、成長産業化を目指す我が国の農業は衰退



離農により使われなくなったハウス 台風により被災したハウス

耕作放棄地が増加し、農地の公益的機能が一層低下

集落の活力や機能が低下し、集落の消滅の危機に

こうした状況に陥らないためには、「持続可能な農業の実現」が不可欠

I

再生産が可能となる

「生産コストを反映した農産物の適正な価格形成」

そのための重要な2つの取組

II

内外の環境変化などに打ち勝つことのできる

「農業の構造転換」と「セーフティネットや緊急対策の充実・強化」

提言 1

- 現在、見直しの検討が進められている「食料・農業・農村基本法」において、食料安全保障の強化のための重点対策として、「生産コストを反映した農産物の適正な価格形成」を位置づけること。
- あわせて、生産者、食品事業者、消費者など、様々な立場による国民的議論を踏まえて、実効性のある具体の仕組みを構築すること。



提言 2

- 農業の構造転換が図られるよう、省エネ技術の導入などによるコスト削減や、デジタル機器の活用などによる生産性向上等の取り組みへの支援策を強化すること



ヒートポンプ



発情発見装置



農業用ドローン



環境制御装置



IoTクラウド画面

- 経営に及ぼす資材価格の高騰等の影響を緩和するため、次の対策を講じること。

- ① 配合飼料価格安定制度の充実
- ② 酪農における経営安定対策の抜本強化
- ③ 肥料価格高騰対策の継続と制度の見直し
- ④ 外国からの輸入に頼っている肥料や飼料などの原料の安定確保対策及び国内資源化の推進

提言内容は別紙

セーフティネット・緊急対策の充実・強化

現状・課題

① 配合飼料価格安定制度の充実



- 配合飼料価格安定制度は、財源不足により異常補填が満額交付されない事態となっている
- 同制度は、四半期ごとに輸入原料価格を直近1年間の平均と比較し、差額を補填する仕組みになっているため、飼料価格の高止まりが続くと制度の発動基準単価も上昇し、結果的に補填額が減少し、農家の負担が増大することになることから、国は農家負担を段階的に抑制する「新たな特例」を創設（R5年3月 畜産・酪農緊急対策）

② 酪農における経営安定対策の抜本強化



- 輸入乾牧草の価格も高騰し、粗飼料の給与量の多い酪農は、飼料コストが大幅に増加
- 生乳取引価格については交渉により価格が決定されることから、飼料コスト等の変動分を反映しつつ、消費者理解が得られる仕組みが必要



③ 肥料価格高騰対策の継続と制度の見直し



- 海外肥料原料の価格は高止まりしており、肥料価格の高騰が長期化すれば、経営が大幅に悪化
- 肥料価格高騰対策事業の申請団体では、多くの参加農業者の様々な伝票の確認や事務処理など膨大な負担が発生



④ 外国からの輸入に頼っている原料の安定確保対策及び国内資源化の推進



飼料

- 耕畜連携による稲WC Sや配合飼料用とうもろこしの増産など、**国産飼料の生産基盤対策を継続・強化**すること
- **配合飼料用とうもろこし**については、各産地から飼料メーカーを通して、全国の畜産農家に供給できるよう、飼料用米と同様の**全国的な集荷・流通体制を構築**すること



肥料

- **国内で調達できない肥料原料**の調達先国の多角化や国内備蓄等、**安定確保対策を推進**すること
- 家畜ふん堆肥や下水汚泥資源からの肥料成分回収など、**国内資源の利用拡大対策を推進**すること



提言内容

- **異常補填基金が枯渇することのないよう、十分な予算を確保**すること
- 配合飼料価格が高止まりしている状況においても一定額の補填が発動するよう、**設けられた「新たな特例」を恒久化・充実**すること



- **生乳取引価格に飼料コスト等の変動分を反映しやすくするための環境整備を早期に図ること**



- 肥料価格高騰による農業者の負担を軽減するため、**「肥料価格高騰対策事業」を継続**するとともに、**申請に係る事務負担の軽減が図られるよう、制度の見直しを行うこと**

